

(別紙②)

2018年度 早稲田大学文学部  
科目等履修生  
(学芸員資格課程・夏季集中講座)

講義要項  
(抜粋版・参考)

文学学院では2017年度より正規学生を含め紙媒体による講義要項（シラバス）の作成・配付を行っていません。当講座においても、講義要項はWebシラバスを正式なものとし、当冊子は参考とします。各回の授業計画・授業実施教室についてはWebシラバスを参照してください。なお授業内容は受講生の人数や理解度に応じて変更となる可能性があります。Webシラバスを参照する際、科目によっては複数のクラス（在学生向けクラス等）が表示される場合があります。当要項掲載の「科目名」末尾のアルファベットがクラスとなりますので、異なるクラスのシラバスを参照しないようご注意ください。（アルファベットの表記がない場合、クラスはありません）。

早稲田大学 Web シラバス : <https://www.wsl.waseda.jp/syllabus/JAA101.php>

- ※ 事前課題がある講義や、事前購入が必要な教科書の指定、持参物の指示がある講義があります。履修される講義の実施概要について、出願前ならびに受講前に必ずご確認ください。なお、講義要項中に「教科書」の項目がない講義、もしくは「教科書」の項目に書籍の指定がない場合（プリントを配付する、資料を配付する、等）は、教科書の事前購入は不要です。

科目名	博物館概論(学芸員夏季) B		
担当教員	山田 磯夫		
開講学期	夏季	単位数	2

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 博物館とは何か、学芸員とは何か、そしてどうあるべきか。

授業概要: 学芸員を目指す受講生の起点となる科目として、学芸員養成科目全体を俯瞰し、相互のつながりを明確にしながらか講義する。

博物館とは何か、学芸員とは何か、そしてどうあるべきか。受講生には常に考えて欲しいテーマである。そこで、博物館および学芸員を理解するために、生涯学習機関としての博物館の特徴、さらに現代の博物館や学芸員をめぐる諸問題を解説し、博物館の課題と展望について考えを深めたい。本講義では、博物館の歴史、博物館の目的・種類、博物館の機能、学芸員の役割、博物館関係法規などについて理解を図る。

授業の到達目標: ①博物館と学芸員の特徴を具体的な事例と共に理解し、説明できる。  
②博物館に関する基本情報を理解し、学芸員の基礎となる能力を養う。  
③博物館の機能および具体的な業務に興味を持ち、博物館の専門職である学芸員を目指すことができる。

事前・事後学習の内容: 事前学習では、なるべく各種の博物館に出向き、展示だけでなくさまざまな設備を見学する。事後学習でも多くの博物館に出向き、学んだ知識を基に展示や諸設備を評価し、博物館活動に参加してほしい。

教科書: 教科書は用いず、レジュメ、資料を配付する

参考文献: 授業時に紹介する。また、Webサイト文学部学芸員資格課程夏季集中講座の「学芸員関連図書」を参照。

#### <成績評価方法>

試験:	0%	なし
レポート:	80%	オンデマンド授業時、対面授業時にそれぞれ1回のレポートを課す。
平常点評価:	20%	平常点にオンデマンド授業確認テストの得点、受講状況も加味して総合的に評価する。
その他:	0%	なし

備考・関連URL: ・対面授業前に、任意に選んだ博物館を各自見学し、レポートを対面授業の初日に提出してもらいます。詳細はオンデマンド授業にて説明します。

・対面授業時、2回目のレポート用に400字詰め原稿用紙数枚(A4サイズ、20 × 20、横書き)、配付するレジュメ・資料を持参してください。

・7月30日(月)3・4時限目にA・Bクラス合同で大学敷地内の博物館見学を行います(予定)

◆事前受講期間(オンデマンド授業)・・・6月25日(月)～7月29日(日)

◆対面受講期間(教室での授業)・・・

7月30日(月)2～5時限

7月31日(火)～8月3日(金)1・2時限

科目名	博物館資料論(学芸員夏季) B		
担当教員	前山 裕司		
開講学期	夏季	単位数	2

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 博物館活動の根幹となる博物館資料について、美術館と美術作品を中心にしながら、(1)資料の収集、(2)資料の特性、(3)調査研究、(4)関連法規などに関する知識と技術の習得を図る。また、現場で起こる具体的な事例や、海外の美術館との比較、日本の博物館／美術館が直面する問題などを紹介し、資料論にアクチュアルな視点を導入する。

授業の到達目標: 資料の価値を理解し、収集・保存の実際や様々な展示の手法、関連法規など、博物館・美術館の裏側で日常的に行われている実務を知る。そのことにより、博物館や美術館を内部で支える学芸員として、あるいは外から支える優れた理解者として、必要な資料に対する姿勢や知識を身につけることができる。

#### <成績評価方法>

試験:	50%	最終日の試験
レポート:	0%	
平常点評価:	50%	授業の出席状況
その他:	0%	

備考・関連URL: 【授業日程】  
◆事前受講期間(オンデマンド授業)・・・6月25日(月)～7月30日(月)  
◆対面受講期間(教室での授業)・・・  
7月31日(火)～8月3日(金)3～5時限

科目名	博物館経営論(学芸員夏季) B		
担当教員	篠 雅廣		
開講学期	夏季	単位数	2

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ミュージアムを「経営」するとはどういうことだろうか

授業概要: この講義では博物館も美術館も、さらに植物園や動物園などその他の施設もミュージアムの用語で統一しますが、単なる集客装置に終わらない本来の存在意義と社会的使命の実現について、具体的な事例を挙げてゆくなかで、ともに考えます。

授業の到達目標: みなさんがすでに持っているミュージアムの「経験」を出し合い共有しながら、「いまどきの学芸員・これからの学芸員」には、社会や組織からどのようなことが求められているのか理解することが、目標です。

教科書: ありません

参考文献: 特にありませんが、適宜指示します。

#### <成績評価方法>

試験: 0% 実施しません。  
レポート: 70% 1600字程度を1本。  
平常点評価: 30% 小テストを数回実施します。  
その他: 0% ありません。

備考・関連URL: 【授業日程】  
◆事前受講期間(オンデマンド授業)…6月25日(月)~8月5日(日)  
◆対面受講期間(教室での授業)…  
8月6日(月)1~4時限  
8月7日(火)~8月10日(金)1・2時限

科目名	博物館教育論(学芸員夏季) B		
担当教員	小笠原 喜康 他/ 稲庭 彩和子/ 佐藤 優香/ 並木 美砂子		
開講学期	夏季	単位数	2

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 本講義は、博物館法が改正されて学芸員養成課程に新たに設置された科目である。これは、以前において「教育学概論」などとして開設されていたものを近年の博物館における教育への関心の高まりから、博物館に特化して学んでいただくことを目ざす科目である。

博物館は、従来近代教育の弊害をカバーする教育施設とみられてきた。近代教育すなわち、同一年齢・同一内容・一斉教授の弊害は、少なくとも百数十年以上前から指摘されてきた。それは、近代教育が成立して普及してすぐにてであった。

そこで本講義では、博物館教育とはどのような教育なのか。果たして学校教育とは違う教育施設なのかという原理的な問題から、実際のさまざまな博物館での実際の教育の実際、そしてワークシートやワークショップの作り方、さらには実際の博物館研究と教育プログラムの作成まで、一貫した博物館教育の問題を理解する。

授業の到達目標: 上記概要にすでにのべているが、本講義では、単に机上の勉強だけでなく、実際のプログラム開発ができるようになることをめざす。したがって、事前に博物館の調査をしていただき、その実を高めたい。

事前・事後学習の内容: 受講生は、教科書の末尾にある演習1の博物館調査(Web調査と訪問調査)をおこなってレポートを作成しておくこと。  
レポートはA4縦置き、横書き、40字×36行、本文10.5ポイント、MS明朝で作成すること(Macを利用する場合は、これに近いもので可)。  
表紙に、訪問館名とその館の写真、学籍番号(登録結果通知書に記載)、氏名を入れること。  
内容にはHPからのダウンロードの他、自分が写した写真も入れること。  
対面講義初日に持参のうえ提出する。

教科書: 小笠原喜康・並木美砂子・矢島國雄『博物館教育論:新しい博物館教育を描きだす』ぎょうせい, 2012

参考文献: 小笠原喜康『ハンズ・オン考:博物館教育認識論』(東京堂出版, 2015)  
小笠原喜康・チルドレンズミュージアム 研究会『博物館の学びをつくりだす:その実践へのアドバイス』(ぎょうせい, 2006)

#### <成績評価方法>

試験: 0%  
レポート: 0%  
平常点評価: 100% 「事前・事後学修の内容」にある事前調査レポート、及び講義中に課せられる課題のレポートの総合点とする。  
その他: 0%

備考・関連URL: 【授業日程】  
◆事前受講期間(オンデマンド授業)・・・6月25日(月)～8月6日(月)  
◆対面受講期間(教室での授業)・・・8月7日(火)～8月10日(金)3～5時限

科目名	博物館資料保存論(学芸員夏季)		
担当教員	山田 磯夫 他/ 関 義則		
開講学期	夏季	単位数	2

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 博物館・美術館の展示環境下や収蔵環境下における資料の保存及び管理について、科学的な視点に立脚した基礎的知識を解説する。また、不動産や無形文化財としての博物館資料(遺跡・民俗芸能・歴史的景観や風致)の保存及び管理・活用について、史跡の整備と活用・エコミュージアムの展開・世界遺産登録への取り組みなどの観点から解説する。

授業の到達目標: 資料保存にかかる総論、資料調査や梱包等における資料の基本的ハンドリング、修理・修復等における資料の保全、災害等における資料保全、IPMや光・大気汚染対策など資料環境の保護と修復、不動産や無形文化財としての博物館資料の保存と活用等について、基礎的な知識を習得させる。

教科書: 特になし

参考文献: 博物館資料保存論—文化財と空気汚染 佐野千絵他 みみずく舎 2010  
博物館資料保存論 本田光子他 NHK出版 2012

#### <成績評価方法>

試験: 50% 授業での理解度を確認する。  
レポート: 0% なし  
平常点評価: 50% 平常点、出席状況も加味して総合的に評価する。  
その他: 0% なし

備考・関連URL: 第1回～第5回、第12回～第15回を関、第6回～第11回を山田が担当する。なお、第1回～第5回はオンデマンド授業とする。

#### 【授業日程】

- ◆事前受講期間(オンデマンド授業)…6月25日(月)～8月19日(日)
  - ◆対面受講期間(教室での授業)…8月20日(月)～8月24日(金)1・2時限
- ※当科目は学部在学生との合同授業です。

科目名	博物館展示論(学芸員夏季) B		
担当教員	高橋 信裕 他/ 薩摩 雅登		
開講学期	夏季	単位数	2

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 博物館の教育普及活動の中核にある展示論を実学的、実務的な観点から検証し、博物館リテラシーを高める。

授業の到達目標: 「博物館展示」の歴史、現状、問題点、今後の方向性等について認識を深める。  
博物館の展示現場で即戦力となるスキルの習得を目指す。

教科書: 必要に応じて適宜資料を配付する

参考文献: 新シリーズ『博物館学教科書』(全4巻/学文社刊)、特に『博物館学Ⅱ』(展示論・教育論)。  
『博物館情報・メディア論』(ぎょうせい刊)

#### <成績評価方法>

試験: 30%  
レポート: 30%  
平常点評価: 20%  
その他: 20% 授業での課題に対する積極的な発言

備考・関連URL: 【授業日程】  
◆事前受講期間(オンデマンド授業)…6月25日(月)~8月26日(日)  
◆対面受講期間(教室での授業)…  
8月27日(月)~8月31日(金)1・2時限

科目名	生涯学習概論(学芸員夏季)		
担当教員	阿比留 久美		
開講学期	夏季	単位数	2

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 博物館は生涯学習施設のひとつであり、学芸員は博物館の専門職であると同時に人々の生涯学習を支援する専門職でもあります。そこで、この授業では以下のような内容を通して生涯学習の可能性と課題を理解した上で、生涯学習を支援する学芸員が果たしうる役割について考えていきます。

- ・生涯学習をとらえるための基本的視点と理念
  - ・日本の生涯学習に関する政策・制度の展開、学校教育との関係・連携・協力
  - ・生涯学習の実践事例とその中でおこなわれている学習内容・学習方法
  - ・生涯学習の学習方法の体験と理解
- なお、この授業の最初の5回はオンデマンド授業で実施する予定です。

授業の到達目標: 生涯学習の基本的概念と意義・課題を理解すること  
生涯学習における「学習」とはどのようなものか自分の言葉で説明できるようになること  
生涯学習支援者としての関わり方や方法について実践的に考えられるようになること

事前・事後学習の内容: 生涯学習における「学び」とはどのようなものであるか具体的にイメージするためのヒントとして、公民館／生涯学習センター・図書館・博物館などの社会教育施設のワークショップや講座に参加してみることを強くおすすめします。  
また、第1回～第5回の授業の中であげた参考文献の中で関心をもったものについては夏季の授業までに読んでおくとなおよいです。

教科書: 特に指定しません。

参考文献: 授業中に参考文献を紹介します。また、必要に応じて資料を配布します。

#### <成績評価方法>

試験: 0% 試験は実施しません。  
レポート: 50% 第15回の授業時間にレポートを作成していただきます。  
平常点評価: 50% 出席状況とともにワークショップにおける参加を評価します。  
その他: 0% レポートと平常点で評価をします。

備考・関連URL: 【授業日程】  
◆事前受講期間(オンデマンド授業)…6月25日(月)～9月2日(日)  
◆対面受講期間(教室での授業)…9月3日(月)～9月7日(金)1・2時限  
※当科目は学部在學生との合同授業です。



科目名	博物館情報・メディア論(学芸員夏季) B		
担当教員	濱崎 好治		
開講学期	夏季	単位数	2

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: デジタル時代の博物館

授業概要: (1)博物館とメディア(広報物・展示物・ホームページ)の実例から学ぶ。  
(2)記録表現メディアの種別と歴史(写真から電子メディアまで)を概観する。  
(3)写真・フィルムの収集と保存、活用の事例を紹介する。  
(4)デジタルアーカイブとドキュメンテーションの事例を示す。  
(5)著作権の実務・許諾の諸手続きの事例を解説。  
(6)インターネットの活用と可能性を考える。

授業の到達目標: 博物館が扱う情報とメディアについて、具体的なケーススタディーから学芸員の実務に必要な基礎知識を身につける。  
(1)メディアの種別を理解する  
(2)映像とは何かを具体的に調査できるようにする。  
(3)著作権法を理解し、契約書を作成できるようにする。  
(4)収蔵品の分類、整理、データベース化の計画を立案できるようにする。

教科書: 必要に応じて資料を配布

参考文献: 必要に応じて紹介

#### <成績評価方法>

試験: 0%  
レポート: 50%  
平常点評価: 0%  
その他: 50% 出席率

備考・関連URL: 【授業日程】  
◆事前受講期間(オンデマンド授業)…6月25日(月)～9月9日(日)  
◆対面受講期間(教室での授業)…9月10日(月)～9月14日(金)1・2時限

科目名	博物館実習(学芸員夏季) A~F 3週間コース		
担当教員	山田 磯夫 他		
開講学期	夏季	単位数	3

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 学芸員の実務を体験する

授業概要: これまで学んできた博物館に関する理論を実学として発展させていくために、最後に履修する科目が博物館実習である。学芸員の日常業務は、収集、保管、展示、調査・研究、教育普及など多岐にわたるが、業務の多くは博物館資料を介しておこなわれるので、学芸員は資料の特徴を理解したうえで、日本文化に根ざした伝統的な取扱いの技術と正確な管理上の知識等を身につけておかなければならない。そのために博物館実習では人文系博物館および美術館の学芸員として必要な経験を積み重ねながら、実践的な能力を養う。なお、展示実習に際しては會津八一記念博物館企画展示室で実務を体験する。

授業の到達目標: 人文系博物館および美術館の学芸員の実務を遂行するために必要な基本的技術と知識を修得し、学芸員資格取得を目指す。

- 1.人文・美術系資料の作法を含めた取扱いが正確にできるようになる。
- 2.展示・保存管理・資料調査等の業務を理解し、できるようになる。
- 3.博物館における学芸員の活動を理解し、興味を持つ。

事前・事後学習の内容: 事前学習では、なるべく各種の博物館に出向き、展示だけでなくさまざまな設備を見学する。事後学習は一時的なものだけでなく、多くの博物館に出向き、学芸員課程で学んだ知識を基に展示や諸設備を評価し、博物館活動に参加してほしい。

#### <成績評価方法>

試験: 0%

レポート: 0%

平常点評価: 100% 実習なので出席を重視し、積極性や貢献度など、実習への取り組み方を評価します。

その他: 0%

備考・関連URL: 【授業日程】

8月20日(月)~9月7日(金)3~5時限【計45コマ】 ※土曜・日曜除く

※当授業は通常と時間割が異なりますので注意してください。

3時限: 13:30~15:00、4時限: 15:10~16:40、5時限: 16:50~18:20

・初回授業は全クラス合同でガイダンスを行います。

◆初回ガイダンス

8月20日(月)13:30~38号館AV教室(予定、変更がある場合別途ご連絡します)

・本科目はクラス指定ができません。クラスの振り分けは大学が行います。

・いずれのクラスも在学生・科目等履修生の合同授業です。

科目名	博物館実習(学芸員夏季) G 2週間コース		
担当教員	山田 磯夫 他/ 井上 尚明/ 淵田 雄		
開講学期	夏季	単位数	3

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 学芸員の実務を体験する

授業概要: これまで学んできた博物館に関する理論を実学として発展させていくために、最後に履修する科目が博物館実習である。学芸員の日常業務は、収集、保管、展示、調査・研究、教育普及など多岐にわたるが、業務の多くは博物館資料を介しておこなわれるので、学芸員は資料の特徴を理解したうえで、日本文化に根ざした伝統的な取扱いの技術と正確な管理上の知識等を身につけておかなければならない。そのために博物館実習では人文系博物館および美術館の学芸員として必要な経験を積み重ねながら、実践的な能力を養う。なお、展示実習に際しては會津八一記念博物館企画展示室で実務を体験する。

授業の到達目標: 人文系博物館および美術館の学芸員の実務を遂行するために必要な基本的技術と知識を修得し、学芸員資格取得を目指す。

- 1.人文・美術系資料の作法を含めた取扱いが正確にできるようになる。
- 2.展示・保存管理・資料調査等の業務を理解し、できるようになる。
- 3.博物館における学芸員の活動を理解し、興味を持つ。

事前・事後学習の内容: 事前学習では、なるべく各種の博物館に出向き、展示だけでなくさまざまな設備を見学する。事後学習は一時的なものだけでなく、多くの博物館に出向き、学芸員課程で学んだ知識を基に展示や諸設備を評価し、博物館活動に参加してほしい。

#### <成績評価方法>

試験: 0%

レポート: 0%

平常点評価: 100% 実習なので出席を重視し、積極性や貢献度など、実習への取り組み方を評価します。

その他: 0%

備考・関連URL: 【授業日程】

(前半)8月6日(月)2～5時限、8月7日(火)～8月9日(木)1～5時限、8月10日(金)1～4時限

(後半)9月10日(月)2～5時限、9月11日(火)1～5時限、9月12日(水)1～4時限、9月13日(木)1～5時限、9月14日(金)1～4時限

・当クラスは前半・後半に分かれており、いずれも出席が必要です。前半のみもしくは後半のみの出席で単位を修得することはできません。

科目名	文化財保存修復(木造彫刻)(学芸員夏季)		
担当教員	櫻庭 裕介 他/ 小松 武彦		
開講学期	夏季	単位数	2

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 茨城県の寺院の諸仏を例に

授業概要: 本授業は日本彫刻のうち木造彫刻の保存修復を実際に行ない、木造仏の構造、技法材料を知ることが目標とする。扱う仏像は茨城県内の寺院に伝わる仏像を予定している。仏像は経年の劣化により非常にデリケートなものなので、その取扱いも注意が必要である。本授業では、事前調査、写真撮影、清掃、解体といった作業を体験してもらつつもりです。

授業の到達目標: 木造彫刻の保存修復を行うことで当時の工人の木に対する考えかたを学び、やってよい保存修復、やってはいけない行為を身につけてもらいたい。

事前・事後学習の内容: 可能であれば博物館実習を受講してもらい撮影、調書の作成等を経験しておいてもらえると本授業の進行もスムーズにいくはずです。

教科書: テキスト(コピー)を配布する。

#### <成績評価方法>

試験: 0%

レポート: 0%

平常点評価: 100%

その他: 0%

備考・関連URL: ・当科目は学部在大学生との合同授業です。

【授業日程】

9月10日(月)～9月14日(金)3～5時限

科目名	文化財保存修復(日本画・古文書)(学芸員夏季)		
担当教員	庄司 文計		
開講学期	夏季	単位数	2

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 絵画・書跡の表装を中心に

授業概要: 本科目は学芸員の仕事として直接関係のあるものではない。しかし学芸員は常に作品や資料を調査、研究、展示をするのが主な目的となるであろう。その場合「手に触れる」という行為無しには仕事にならないものである。その為には資料、作品等の材質技法等を熟知し、その作品の構成や保存環境を深く認識し、その作品の弱点を見極めなければならない。授業概要は以下の通り。(1)日本における文化財修復(2)裏打、屏風等の下張など(演習施行)

授業の到達目標: 本授業は文化財修復という立場から、資料、作品の材料、表装の構成、技法等を考察し、学芸員として必要な経験を養成することになる。

教科書: プリントを配布する。

#### <成績評価方法>

試験: 0%  
レポート: 0%  
平常点評価: 100% 3分の2以上の出席を要する。  
その他: 0%

備考・関連URL: ・当科目は学部在學生との合同授業です。

【授業日程】

9月10日(月)～9月14日(金)3～5時限

科目名	文化財保存修復(洋画)(学芸員夏季)		
担当教員	村松 裕美		
開講学期	夏季	単位数	2

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 油彩画を中心とした技法と材料、及び修復について

授業概要: 絵画の歴史、主に技法・材料の歴史から、作品がどのようにして現代まで残されてきたのかを考察する。  
 作品が様々な材質から成り立っていることを確認し、構成されている材料との関係性を考える。  
 劣化の要因を、構成する材質と環境の問題から原因物質を考える。  
 劣化の事例を紹介する。損傷状態を確認することにより、作品を観察する目を養い、保存のあり方を判断する能力を習得する。  
 油彩画の損傷状態を調査する方法と修復について学び、学芸員としての認識を高める。  
 事前に、できるだけ多くの作品を「見る」ことを望む。ここでいう「見る」とは「鑑賞」することだけでなく、「観察」することを示す。観察することで、  
 鑑賞するだけでは見えにくい材質や状態が見えてくる。  
 この授業では、材料と技法が全体のキーワードとなるため、材料についての知識が求められる。

授業の到達目標: 絵画の歴史、主に技法材料の歴史を踏まえ、作品がどのように現代まで残されてきたかを理解する。  
 作品が構成されている材料の知識を習得する。  
 劣化の原因物質を確認し、保存に対する知識を習得する。  
 以上を踏まえ、実際の作品を調査し修復作業を体験することにより、油彩画の保存修復における判断力を養うことができる。

事前・事後学習の内容: レジユメの内容をしっかりと読了すること。  
 油彩画の材料について、画材店などで実際に材料を確認しておくことを勧める。  
 技法については、事前に技法書などで予備学習しておくことを勧める。  
 ※それぞれにかかる時間は、各自で判断すること。

教科書: 特になし。授業中にプリントを配布する。

参考文献: 特になし。

#### <成績評価方法>

試験:	0%	なし
レポート:	0%	なし
平常点評価:	50%	出席重視、授業への積極的な参加及び授業態度
その他:	50%	作品調査書 調査及び修復作業態度

備考・関連URL: ・当科目は学部在学生との合同授業です。

【授業日程】

9月10日(月)～9月14日(金)3～5時限

科目名	資料保存修復(近現代文書)(学芸員夏季)		
担当教員	有友 至 他/ 中島 郁子		
開講学期	夏季	単位数	2

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 膨大な近現代資料を後世に残すには、デジタル化を促進するのが良いのかあるいは資料を個々に修復して残すのか、その中で我々はどのような判断をして、効率的に将来に残す方法などについて、基本である修復の技術を学ぶことともに資料の保存を考える。

授業の到達目標: 修復保存の重要性、それに伴う問題点をみつけ、膨大な資料をいかに残すかを判断できるようになること。

#### <成績評価方法>

試験: 0%  
レポート: 0%  
平常点評価: 0%  
その他: 100%

備考・関連URL: ・当科目は学部在學生との合同授業です。

【授業日程】

9月10日(月)～9月14日(金)3～5時限

科目名	文化財専門講義(日本絵画史)(学芸員夏季)		
担当教員	谷川 ゆき 他/ 新江 京子		
開講学期	夏季	単位数	2

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 中世から近世の日本絵画史の流れ(主に世俗画を扱う)について、前半の授業(担当:谷川)で中世を、後半の授業(担当:新江)で近世を取り扱う。各時代の名品への親しみを深めると同時に、中世・近世絵画を調査・研究するための基礎知識の習得を目指し、形式、材質、主題等、作品の持つ情報の把握方法を学ぶ。また、後半の授業では、変体がなと篆書体の読み方を学ぶ。

授業の到達目標: 名品によって日本絵画史の流れを理解し、作品の基礎的情報を把握するための知識習得を目標とする。簡易な篆書体と変体がなの解読ができるようになることを目指す。

授業内で紹介する

参考文献:

<成績評価方法>

試験:	60%	第7、9回の授業で小テスト、第15回の授業で授業内容の総括的な「理解度の確認」テストを行う。
レポート:	0%	なし
平常点評価:	40%	出席及び発言等授業への参加
その他:	0%	なし

備考・関連URL: ・当科目は学部在學生との合同授業です。  
【授業日程】9月10日(月)~9月14日(金)…3~5限



科目名	文化財専門講義(日本工芸史)(学芸員夏季)		
担当教員	池田 宏 他/ 加島 勝/ 小松 大秀		
開講学期	夏季	単位数	2

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 漆工史、刀剣・甲冑史、金工史

授業概要: 諸工芸の中でも早くから日本独特の展開をみせたのが、漆工芸である。その中でも、日本の漆芸装飾の主流を占めた、「蒔絵」の技法による作品を中心に取り上げる。特に現在まで伝えられた古美術の漆芸品の中では圧倒的に数量の多い、近世の作例について、作者や用途と形体、文様や技法について詳述する。(担当: 竹内)

工芸史のうち、武器・武具の中心となる刀剣・甲冑をとりあげる。刀剣は太刀や刀、拵(こしらえ)と称される外装、鐔などの刀装金具について、甲冑は鎧や胴丸・腹巻、当世具足の構造や変遷を絵巻なども交えながら説明する。これらの保管、展示について解説する。(担当: 池田)

仏教が韓半島の百濟から伝えられた6世紀半ば以降、日本古代(飛鳥時代～平安時代)の工芸は仏教を中心に発達した。このような仏教に関わる工芸のことを仏教工芸と称しています。中でも金工(金属工芸品)はその中心をなしていると言っても過言ではない。奈良・法隆寺には多種多様な古代の金工品が伝えられ、その一部は法隆寺献納宝物として東京国立博物館法隆寺宝物館に展示されている。この授業では法隆寺献納宝物に含まれる金工品を中心に、法隆寺に伝えられた作品を通して、日本金工史の一端を具体的に学ぶ。(担当: 加島)

授業の到達目標: 諸工芸の中でもデザイン性に溢れ、鑑賞になじみやすい近世の漆芸品について、その歴史の流れを辿り、用途や技法、制作年代の目安を知る。(担当: 竹内)

刀剣、甲冑の歴史的変遷、種類、構造などを理解する。(担当: 池田)

法隆寺に伝えられた金工品を通して、工芸史研究と文化財研究の基礎を身につけ、作品を見て考えたことを自分の言葉で表現できるようになる。寺院や博物館・美術館等で、実際の作品を見て勉強する態度が身につく。(担当: 加島)

教科書: 授業時に紹介します。

参考文献: 授業時に紹介します。

#### <成績評価方法>

試験: 60% 授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。

レポート: 0%

平常点評価: 40% 授業への積極性を評価します。

その他: 0%

備考・関連URL: ・当科目は学部在學生との合同授業です。

#### 【授業日程】

9月12日(水)～9月14日(金)1～5時限

・この授業を通して博物館・美術館、社寺の宝物館等で、実際の作品を鑑賞して勉強する態度を身につけてほしい。

・当科目と「博物館情報・メディア論(学芸員夏季)」は授業日程が一部重複しているため、同時に履修できません。